

第5回 尼崎市総合計画審議会 議事録

日時	平成 22 年 10 月 8 日（金）18：00～20:20
場所	尼崎市すこやかプラザ 多目的ホール
出席委員	加藤会長、久会長代理、赤井委員、赤澤委員、荒木委員、磯田委員、一谷委員、稲垣委員、川中委員、川向委員、蔵本委員、塩見委員、高濱委員、辻委員、土谷委員、中村委員、長村委員、濱名委員、安田委員、山本(起)委員、吉岡委員、渡辺委員
欠席委員	北村委員、佐竹委員、澤木委員、白石委員、東田委員、弘本委員、山本(正)委員、吉田委員
事務局	岩田企画財政局長、蟻岡企画財政局参与、中浦行政経営推進室長、梅村都市政策課長、安川調整課長、都市政策課

開会

委員出欠報告、配布資料確認（事務局）

会長挨拶、異動委員紹介

会議録署名委員の指名（会長より名簿順に 2 名を指名）

会長

それでは、議事に入りたいと思います。

本日の審議会総会は、前回の 4 月 2 日の総会以降、半年の期間が経過しました。この間ですが、5 月 20 日に私と会長代理で、市長に中間答申をお渡しいたしました。

その後は、2 回に渡って専門部会で議論をしていただきました。本日はその専門部会の議論を踏まえまして、次の段階の改めてスタートといえますか、議論していきたいと思えます。

それでは、事務局より「あらたな総合計画の骨格案について」説明をお願いいたします。

1. 新たな総合計画の骨格について

資料について説明（事務局）

会長

ありがとうございました。

今回、市民懇話会から提言をいただいております。懇話会からの選出委員より簡単に今回のご提言などについてご説明いただければと思います。

委員

既にも書いている詳しいものをご覧いただいているかもしれませんが、先程申し上げました、外部の力で何とか元気な尼崎にというよりも内部に持っている力をどう引き出すかというところになりました。市民がつくるのだから、「だから、あまが好き」と答えるフレーズで整理をしました。学びたい気持ちに答えてくれるから「尼が好き」というふうに繋げて、やはり自分の住んでいるところが好きになれる、好きだと言えるような尼崎にしたいというのが私たち市民の願いです。何度もお話で出てきましたように、地域を生かす問題とか、行政だけが市を作っていくのではなくて、自治会、NPO、色々な団体を含めて、ここに住んでいる者がそれぞれの役割を担うことによって、活発にしていきたいというふうなことを話しました。いろんな立場の市民がいる中で、議論を重ねてまとめさせていただいたものが、別紙 -1 の右端にあります、懇話会提言書から抜粋されてきたものです。

細かいところは参考2の「提言書」を見ていただいたらよいのですが、右側のページにある「メンバーから出た意見」というのは、議論の中で出た生の意見です。これは「懇話会の意見」として共有したものではありませんが、様々な意見をそのまま取り上げました。そして左側のページに書いてあるのが、一応、色々な立場があるけれども、みなさんが言葉として一致できる、この事は大事にして新しいまちを作っていきたいというふうに共有して書きあげた言葉が書いてあります。

会長

ありがとうございました。続いてお願いいたします。

委員

先程のお話の通りです。「だから、あまがすき。」という8つのフレーズを考えたときに、まず、今の尼崎にも、いいところがたくさんあるよねという話です。例えば、「まちに元気がみなぎっている」という時には、尼崎の人ってみんな元気な人が多いよねというような所から、「まちに元気がみなぎっている、だからあまがすき。」というようなフレーズが生まれました。そして、まだまだ尼崎には足りないよねというような所から、「学びたい気持ちに応えてくれる尼崎」になっているだろうか、子どもたちが元気に教育を受けて成長していける尼崎になっているだろうか、まだまだ足りないところがあるんじゃないだろうかというように、今の尼崎が好きというのと、もっとこうなってほしい、まだまだ足りないところがあるよねという両方の意見を含めた「だから、あまがすき。」というふうにまとまっています。話し合いを重ねる中で、本当に色々な意見が出て、先程、おっしゃったように、「懇話会としてこれです」というよりも、「色々な意見がでました」というのが、この冊子にまとめてあると思いますので、読んでいただけたらと思います。

会長

ありがとうございます。

非常に分かりやすく書かれており、是非、お二人の立場からこれからの審議会での発言に期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは議事に入りたいと思います。本日のテーマは、先程事務局より説明がありましたように、大きくはお手元の審議会資料 に集約されているように思います。

これまでの中間答申までの4回の審議会を整理していただき、また、今、お話にありました市民懇話会の提言を組み込んでいただきながら、別紙 -1、別紙 というような形で整理されたものであります。

論点としては2つあると思います。1つは資料 の全体、議論のフレームとでもいいかもしれません。これについて皆さんにご意見をいただきたいと思います。中間答申で示された考え方が左に位置づけられて、さらにそこから右の方にいくと総合計画のコンセプトということで「大きな方向性を共有」とあります。下の方は基本計画であるため、これは来年度の議論になっていくと思いますが、具体化に向けた施策を考えるという、新たな総合計画の構成イメージになっています。2つめは、構想の記述の中身の話、このあたりになってこようかと思っています。

まず、総合計画のコンセプト、あるいは、構成イメージというこの流れのあり方、フレームについてご意見をいただければと思います。その後、構想の中身に入り、別紙 -1、あるいは別紙 のまちづくりの構想、ありたいまちの作り方の中身についてご意見をいただければと思います。

では、まずフレームのところから、骨格を我々が議論していくということで、どうなん

だろうかということ、思い付かれた点でも、あるいはこの点が抜けている、あるいはこの点は修正すべきだという点でも結構ですので、自由にご意見いただければと思います。

委員

事務局の説明の中で分からない部分があったため、確認をしたい。

最後に説明された、「新たな総合計画の骨格イメージ」の、いわゆる基本構想部分の「まちづくり構想」の部分と、その下の「まちづくり実行計画」の関係の説明の時に、計画を上から下、下から上という双方向の計画のイメージだという説明であったが、双方向というイメージがわからない。要するに、基本構想があってそれを実現するために実行計画が作られると私は思っていたが、双方向というのがよくわからなかった。

会長

では、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

双方向のイメージについてのご質問ですが、現行の総合計画では、基本構想レベルで、産業・教育・文化・福祉・都市基盤などをどうしていくかということの方向性がある程度書かれており、そこをさらに具体化するものとして、基本計画があると考えております。これに対して今回の総合計画との大きな違いは、基本構想に施策分野ごとの方向性を出していないということであり、基本構想では、どのようなまちでありたいのかということを書いております。その上で、ありたいまちに近づくためには、例えば産業はどの部分にアプローチしていくのか、どういった事をしていかなければならないのかというようなことを施策ごとに実行計画の中で考えていくような計画という意味で、下から上というように申し上げました。

委員がおっしゃるとおり、当然、基本構想を実現するために実行計画はあるのですが、基本構想のレベルで方向性が固まってしまうのではなく、時代の流れに対応して、構想に示したありたいまちを念頭に置く中で、では、具体的に何をしていけばよいのか、どこに力を入れて行けばよいのかということを考えられるような計画にすることで、これからの時代に対応していくということではないかという考え方でございます。

委員

私の認識では、今までの計画との違いは、基本構想が10年という短い期間に絞られ、まちづくり実行計画は5年という単位で作られるというのが中間答申の方向性であったと思う。ですから、当然、その基本構想というのは、あくまで10年という単位での基本構想のイメージでいるのですが、今の説明だと、尼崎が求めるあり方みたいなものが出されているが、そのあり方というものは、いったい30年後なのか20年後なのか、あるいは50年後に目指すものなのかわからない。期間が10年間ということであれば、いつでも通用するような文言で終わるというものではなく、もう少し具体的に「10年後にはこうしたい」という内容が盛り込まれるべきものだと思う。そこに大きな方向性が入らないというのがおかしいのではないだろうか。要するに、30年とか40年という基本構想に比べれば、10年という単位であるため、そこにある程度の具体的な方向性というものが出しやすい状況になるにも関わらず、そこに具体的な方向性が盛り込まれないのはおかしいのではないかと思う。もちろん、具体的な方向性は、まちづくりの実行計画で作ればよいが、構想の10年後のありたいまちに対して、概ね、こういう方向性があるのではないかという部分は、必要ではないかと私は思った。構想部分では、ありたいまちだけを書きますという話であったため、もう少し大きな意味での方法論は必要だと思った。

会長

方法論のイメージをもう少し具体的にお話いただきたい。

委員

例えば、各論を展開するのは実行計画になるが、例えば1つの例でお話すると、「人と人とが支え合える地域をつくりましょう。そういうまちでありたい。」というのが1つの柱になるとすると、それはどのような観点でつくっていくのかというアプローチをする総合的な視点くらいは入れておかなければいけないのではないのでしょうか。例えば、人と人とが支え合えるまちでありたいというのは、おそらく10年後でも20年後でも30年後でもそういうまちでありたいと思うだろう。だからこそ、10年後せめてこのレベルまでは達したいという記述が必要ではないか。

会長

今のご意見は皆さんもご理解いただけたと思う。現行の構想と違って、10年という短い期間を構想として位置づけている限りは、その構想の中に具体的な議論を組み込んだ方がいいのではないかというお話であると思う。事務局より何かあればお願いしたい。

事務局

今のお話は、この10年の計画というのであれば具体的な目標を定めてはどうかということだと理解しました。現在、わたくしどもは、まちづくりの目標として、ありたいまちを4つ出しています。これに関しては、委員のみなさまにも事前に説明させていただいているかと思いますが、必ずしも「10年後の目標」という想定ではありません。少なくともこの10年間はこの「ありたいまち」に向かって進んでいってはどうかという観点から書かせていただいています。

ただ、この厳しい時代の中でありたいまちを目指していく中で、今おっしゃった目標ということにつきましては、その実現を目指す具体的な方法論とともに、従来の基本計画の部分にあたる、構想の下位のまちづくり実行計画にきちんと書き、議論いただきたいと現在は考えています。

委員

わたしも「ありたいまち」というのがよくわからない。先程、市民委員の方が「よいところを伸ばそう。好きなところをもっと発展させよう」とおっしゃった。これはよくわかりました。

「ありたいまち」の最終的にある形というのは、10年でどういう形になりたいのか。これはどちらかと言えば、市民憲章のような理念のようなものになるのかなというイメージです。参考資料の6に、「時代認識と尼崎市の現状」が最後にありますよね。矢印があって、カッコ書きになっている。これだけを見ると、「ありたいまち」という理想があって、一番最後に時代認識と今の現状がある。上の理想にどう近づけるか、そのようなイメージがある。やはり、10年単位くらいで言えば、今、尼崎が抱える問題・課題についての解決の方法は行政との協力でということになると思う。課題としては、少子化の問題、経済、環境の問題など色々あるが、10年間で何を解決しなければいけないのかという問題意識のもとに、それをこういう方向のもとにやっていくという方向性については、10年くらいの単位であれば描けるのではないかと思う。「ありたいまち」という位置づけがよくわからない。理想論を掲げて、現状をそれに合わせていきましょう、というようなイメージしか出てこない。

会長

他の委員の方のご意見も伺えればと思うが、いかがでしょうか。

委員

今の尼崎の現状を見て、今後どうあらねばならないかということ考えた時に、4つのセンテンスに集約されているわけですが、では、これが尼崎市でなければ、もしくは、ならではのセンテンスになっていると言われると、たぶん、沖縄であったとしても同じことであるのかなと思う。日本中どこでも、支え合うまちということは、通用するのではないかな。先ほどの発言と被るかもしれませんが、それはそれとして、現状を認識した上で、例えばこういう指標、目標値を設定すべきというとなかなか難しいかもしれないが、いわゆる効果測定をするような指標をいくつか、それを数値化できるかどうかというのはまた別にして、そういう指標を設けて、このようにもっていきたいと具体的にしなければ、表紙だけ変えたら結局どこのまちでも同じように通用する、というようなものになってしまう恐れがあるのではないかなと思う。その辺りは実行計画の方でやるんだという考えもあるかもしれないが、10年ということで作るのであれば、10年後にはこういう指標がこうなっている、少なくともこうなっていようね、というような目標みたいなものを、できるだけ具体的にわかりやすくした方が、後でみんなが見た時に、実行計画を見直す時にも現実との乖離というものを軌道修正していきやすいのではないだろうか。

会長

ありがとうございます。

構想は確かに抽象的にならざるを得ないのだが、これまでいただいたご意見では、このままの内容では、尼崎という特性がなくどこの町でも同じになるのではないかな。具体的には、指標という形で尼崎の個性を出してはどうかというご指摘をいただいた。他の委員の皆さまはいかがでしょう。

委員

上手く説明できるかどうかかわからないが、私は、この「ありたいまち」という4つの視点を設定して計画を作ろうとしている取組に関しては評価をしています。なぜかと言うと、従来であれば産業とか環境とか都市整備とか、ある意味、今、役所が持っているフレームにまちづくりを合わせる感じになっていたかと思うのですが、今回は「ありたいまちの姿」というのを設定して、ターゲットを「ありたい像」にしており、それを実現するためには、今の既存の枠組みを場合によっては取っ払うこともあり得るのだということだと思う。ありたいまちの4つの姿が良いか悪いかは議論する必要はあると思うが、この組立てを変えていくことそのものについて、私はこの方向でいいのではないかなと思う。

要するに、これから必要なのは達成されることであって、それを誰がやるか。都市整備だけが何かをやって、別の部局が別の何かをやるということよりも、目標に対して連関したり相乗効果を出したりと、上手く言えているかわからないが、この組立てそのものを私はとても分かるし、画期的だと私個人は思っている。

会長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

委員

「ありたいまち」と言うのが漠然としていると思う。市民に訴えようと思うと、一言でどんなまちがよいかと尋ねたとき、ありたいまち4項目を上げるわけです。それであれば、これだと、持っている力が弱いのではないかなと思う。ありたいまちと言えば、誰でもありたいまちを思っています。このような発想があるのは素晴らしいことであると思うが、こ

れを集約したときに何ができるか。こういうことでありたい、こういう実感ができるまち、活力あるまち、こういうことを行う先は何があるのかということをもイメージとして持っておかないと、漠然とした計画になると思う。誰でもみなさん、それぞれがありたいまちを持っているから。

私は、例えば、「尼崎の住民自治を育むまち」など、きちんとイメージを作っておいて、この4つをするために、終着点はどこかなど、そういうイメージをやはり出したほうが、一般の方には、理解してもらえないのではないかと私は思います。

会長

尼崎として「こうしていきたい」ということをもう一步踏み込んで書くということでしょうか。

委員

その通りです。そうでなければ、先程おっしゃったように、パッとタイトルを見る限りは、どこでもある形である。では、尼崎の特性をどのように出すか、そこを強烈にこうありたいということを訴えていかなければ、私は漠然とした計画になると思います。尼崎でなければいけないというような、そのようなイメージを出し、それに則って市民に訴え、市民がそういう形で行動していただける、それが一番分かりやすいのではないかと私は思います。わかりやすい総合計画であってほしいと思います。

会長

この辺りは、構想期間を10年としたことで、構想と計画部分の関係が曖昧になってきているところから来るみなさんの議論だと思う。私自身は、この議論は非常に重要であると思うため、是非ともこの辺りはみなさんがどのようにお考えなのかお聞かせいただければと思います。

委員

私自身は、この「ありたいまち」の4つに集約された視点は、非常に重要なことだと思っております。なぜかと言うと、これまでは、あまりにオリジナリティが大切とか言って、実は人間にとって生活していくときに当たり前のことを当たり前のように、生き生きと地域で生活していくという視点があまりにもなおざりにされて、ハードの面やその地域のオリジナリティに必要以上に注視し過ぎた時代が続いてきたのではないかと私自身は思っています。

ですから、構想の下の実行計画の所ではしっかりと具体的に考えていくということは良いことだと思います。この案では5年というのを一つのスパンとして考えており、その部分では、しっかりと具体的な計画を立てていくこととして、構想の部分では市民に訴えていくというのが大事な視点であって、縦割り行政をこの際、ぶつつぶす位のイメージが込められていると思うので、私は非常に賛同できる部分であります。

委員

この4つのイメージの中には、言葉は違うけれども、懇話会で話し合った内容は組み込まれていると思います。ただ、懇話会でも、全体を一言で言える言葉が欲しいなという話になった。色々、検討に挙がって、スローガンのように言える言葉が欲しいと思い、「だから、あまがすき。」という横串となる言葉を入れたのですが、例えば「住み続けたいまち」という統一の将来像の案も出ました。そのような短い言葉、例えば「市民本位のまち」などが欲しいと思った。

私は教師なので学校での事例しか思い浮かばないのですが、学校の教育目標はだいたい

どこでも似ていますよね。大事なことはあまり変わらない。学校という場面であれば大事なことと言うのは、多少言葉は違うけれども、知・徳・体、その3つを「元気なこども」としているか、「たくましい体」としているか、若干の違いで、価値観はそんなに大きく変わっていない。そうすると、「市」という単位で物事を考えると、そこで大事なことというのは、どこも似たりよったりになるのかなと思う。

ただ違うのは、健康・安全・安心を実感できるまちと言ったときに、どのような具体的な計画を持っているかというのは、市によって大きな違いであると思う。尼崎は今、力を入れていて聞いたのですが、メタボ健診を健診して終わりではなく、後の経過を追いかけていって、どうなっているかということまできちんとしているという所がありますよね。そういうのは尼崎独自の取組だと思えますし、環境の取組も私は知らなかったのですが、尼崎市は他市より評価されていると聞いた。この下にかかってくる計画が「なるほど尼崎なんだな」と納得できる部分が出てくるのではないかと思うので、この構想の部分は普通のものでいいのではないのでしょうか。前の計画とは全然違うのは、おそらく、この「ありたいまち」の言葉だと思います。何度も言っているように、誰かの力で何とかしようとするのではなく、「にぎわい創生」というように外部より人を呼びこんで大きな建物を建てて、とかいうのではなく、そこに住んでいる人の元気をいかに持ち出すか、繋がりをいかにきめ細かくつくるかというところが新しい視点で組まれているので、大きな部分はこれからだと思うし、細かい部分は色々ありますが、大まかにはこの形で良いと私は思います。

会長

構想であるため、どうしても抽象的にならざるを得ない。具体的なところは計画でいいのではないかというご意見ですが、他にはいかがでしょうか。

委員

私も基本的には、「ありたいまち」ということで、まちづくりの構想としては、この4つでよいのではないかと思う。ただ、「6.時代認識と尼崎市の現状」から矢印が上がってきていますが、ここを重視していただきたいと思う。

結局、尼崎市の現状そのものを理解した上でということ、今の尼崎市に欠けているものという発想から「ありたいまち」というのがでてきているのではないかと思う。だから、これらを1つずつ塗りつぶしていく実行計画が、これから先に出てくるのではないかと議論して感じていた。

会長

議論がフレームを越えて「ありたいまち」の中身、あるいは、場合によっては、その次の「まちづくりの進め方」も含めて議論いただいているようですので、論点1、2と分けるのはやめて、自由に議論することにしていきましょう。

「ありたいまち」を4つあげていただいています。私個人の意見としてはこの4つは抽象度は高いですが、うまく設定されていると思う。これ以外に、こういう視点もあるということも含めてご発言いただければと思います。

委員

この4つの項目が良いか悪いかは後の議論になると思っていたので言わなかったが、これはこれで良いと思う。

ただ、私が申し上げたのは、基本構想で10年間の目標を設定して、まちづくりの実行計画を5年に設定しているわけですよね。そうであれば、仮に、具体的な方向性なり目標をまちづくりの実行計画に添えるとすれば、5年先の計画しかでないですよね。そうすると、

構想の10年間という期間のうち、5年間の方向性というのは、その10年の目標を達成するためにまず、5年を積み上げていこうというものであり、そして5年後に見直したときに、実はなかなかうまくいっていないね、ここでこの部分のペースを上げないといけないね、この方向を変えなければいけないね、という調整が入ると思う。10年後の方向性もしくは到達点といったものを、数値目標と言われたが、私は数値目標までは具体化する必要はないと思うけれども、尼崎の現状から言えば、この辺までは到達したいという目標をもう少し具体的にしておかないと、5年・5年のまちづくり実行計画の方向性が出てこないと思う。

委員

事務局の説明の中で、上から下といったが、基本構想を考える中で、同時に基本計画があり、また、その上で、実施計画あるいは財政計画がある、というような認識のもとにきているし、これからもそうあるべきだろうと思う。

その中において、基本構想の中では、確かに今出ている4項目はまだ議論には入っていないけれども、これは具体性に欠けていると思う。もう少し具体的にされた方がわかりやすい。

その具体的なものは何かといったら、市民懇話会の提言では、いわゆる頭出しみたいに将来像という形ではっきり出されている。これは基本となる計画のところでは議論となり具体的に出てくるだろう、とそのように私の中では認識している。基本構想を語るときに、基本計画も同時並行で考えていかなければならないのではないかと切り離すと話がしにくい。

もう少し言うならば、これは難しいとは思いますが、財政面まで視野に入れておかなければいけないと思う。そこまで踏まえた上で初めて、基本構想そのものの根底をなしていくのではないだろうか。

言葉の遊びだけをしているのならいいが、前を向いて進めていかなければならない時にもう少し言葉に具体性があるのであれば、これから私たちが期待するまち、こんなまちになりたいということに対しては、全然異論はない。それとまた話に具体性があれば嬉しいなと思う。これから基本計画を立てるところで、うまくマッチングしていく、そうすることによって市民にも分かりやすくしなくてはならない。基本構想の言葉だけでは遊んでられないという思いがあります。

委員

私が席を外した間に同じような発言があったかもしれませんが、「ありたいまち」の4つのテーマ、これは間違いではないと思う。しかし、果たして、この「ありたいまち」の4つを見たときに、初めて見た方がこれを見て「尼崎」のことと思われるかどうか疑問である。確かにこのように抽象的になってしまうのかもしれませんが、この時点で、難しいとは思いますが、尼崎と分かる部分があってもいいのではないかと。間違いではないと思うが、これが西宮と言われても神戸と言われても、もっと言うならば北海道の函館の「ありたいまち」と言われても通用する話だなと思った。だから、少しでも特徴を出せたらなと思った。

前回の議論でも申し上げましたが、私はずっと尼崎に住んでいますから、私なりに知っている尼崎の特徴もあるため、そういった特徴も生かし、よりよい尼崎を目指しての「ありたいまち」というのが、パッと見て「尼崎のありたいまちなんだな」というものが分かるものを入れることができればいいなと思った。特に尼崎は、近畿・関西で特に重要なポ

ジション、最高のポジションにありますよね。公害のまちといわれたまちが、これだけ環境がよくなった。環境コンテストではいつもベスト10に入っている。もっとやってほしいコンテストとしては、昔はこれだけ環境負荷が悪かったが今はこれだけ環境負荷が軽くなったという、この変化を比べるようなコンテストをやっていただいたら、尼崎はおそらくベスト3、いや、ナンバー1なるのではないかなと私は思っている。他にもあるが、そのような特徴が垣間見られるような「ありたいまち」があってもよいのではないかなと思う。

会長

よくわかります。外から見ている1人として、尼崎の持っているポテンシャルは非常に大きいと思う。これからもこの圏域で重要な役割を果たしていくと思うが、その辺りがこれでは見えにくいのではないかということですね。その点も含めて、尼崎の特徴が組み込まれればもっとわかりやすいというのが、「より具体的に」という意見の皆さんの共通したポイントではないかと思う。

一方、これは構想だからいいんだ、というご意見もいただきました。この辺りも、まだ1時間ほどありますので、ご自由にご発言をいただければと思います。この後の、まちづくりの進め方の4つのポイントについてもご発言いただければありがたい。もしよろしければ、懇話会の取りまとめをいただいている会長代理から、ご意見をいただければと思います。

会長代理

あり方検討の専門部会でも議論をしてきたわけですが、先程10年というお話がありましたが、1つ共通認識をしておきたいと思うのが、今は激動の時代・変化の時代であるということです。例えば、10年前に今を想定できたかどうか。特にリーマンショックというのは非常に大きく、リーマンショックがこれだけ世界を揺るがすということを10年前にどういう方がどれだけ想定していたか。

そういう意味でいうと、従来は安定した時代であったため、トレンドのままそのまま行ってしまうという事が多かったが、この激動の時代に入ってきたときに、そのトレンドを読み切って10年後を予測したとしても、その通りにいかないかもしれない。そうすると、その10年後を想定するにあたって、従来のような課題解決型あるいはトレンド分析型の10年後ではない、というやり方もあるのではないかということです。この世の中の動きを見るよりも、市民懇話会がまさしくそうであったように、これからどうしたいのかという1人1人の意思を、「こうありたい」という意思を、その意思の方向性だけ統一しておいて、みんなが合わせながら日々の活動等でできることをやっていくことによって、自らの意思が蓄積するなかで10年後を築き上げていく。こういうような方向性の「ありたい姿」「ありたいまち」もあるのではないかと思います。

ですから、その激動という時代の中で、どういう10年後の組み立て方、描き方をするのかということ言うと、従来はこの10年前の状況とはかなり変わってきたのではないのかなということもあって、こういう提言の出し方をしているということです。

それと、もう1つ重要だと思うことは、価値観とか考え方というのがあまりにも多様化しているという気がします。実は、この懇話会は、提言書を見ていただいたと思いますけれども、16回行っています。何度か傍聴にいられていた委員の方は、どういうやりとりをしているかなどは、ご理解いただいていると思いますが、かなり細かい話から大きな話まで色々な話が出ました。そして、最後の数回、何とかまとめないといけなくなった時に、いわゆる共有できている所はどこなのかということを考えながら、みんなで知恵を絞って

出してきたのが今の提言書です。細かい話というのは、もうひとつ下のレベルで、共有できていないところは、どういう人たちがどういう意見を言ったのか、どういう思いを持っているのかということが書かれていると思いますが、このレベルにくるとかなり個別具体的話が出てきます。

しかしながら、残念ながら、と言えは怒られるかもしれませんが、なんとかみんなで共有できた部分が提言書の内容であり、見ていただければおわかりになると思いますが、今回の構想部分の内容と同じように、かなり抽象度の高いものになっています。しかし、抽象度が高いということは、方向性を示していないということと同義ではなくて、抽象度は高いけれども、みんなでこっちの方向に向かおうという方向性は示しているというような気がしております、その辺りが今回、構想部分を見ていただいて、本当に方向性は見えていないのかどうかという点でチェックをしていただければ、と思っております。

何が言いたかったかと言うと、これだけ多様な価値観が出てきた時代に、市民懇話会のこれだけのメンバーでさえ 16 回の議論をしても、抽象度の高いところでしか共有できていない。さらに 50 万人の尼崎市民が本当にどのレベルまで共有できるかという、これから繰り返し、繰り返し議論をしていかなければいけないと思う。

しかし、先程から言っているように大きな方向性を共有しておけば、それに従ってみんなが 1 つ 1 つの出来事、あるいは行動活動を積み重ねていけば、そっちの方向に進み始めるわけであり、そういうレベルのいわゆるビジョンをまず共有しておきたいというのが、4 つの「ありたいまち」の内容でもあるわけです。これまでの総合計画では、もう少しブレイクダウンした内容でもよかったのは、例えば 1960 年代くらいであれば、経済的に成長しようよということに関しては、誰も反対をしなかったという大きな方向性が共有できていたからなのですが、現在では、実際に大きな方向性さえも、かなり価値観が違って共有できていかない、別の意味での激動の時代に入ってきましたので、そこで議論を繰り返しながら、ここの大きな方向性をまず共有したいなと思っております。

さらに、この場では、実行計画の内容はさておき、というような話になっているので、心配だというご意見が出ていると思うのですが、この実行計画レベルでは、かなり具体的な、さらに具体的な話が出てくると思います。実行計画の議論になった時に、これは実行計画レベルではなく基本構想部分にあげていった方がいいのではないかとこの事であれば、それは編集作業の内容に入ると思いますので、来年度、この実行計画を議論する中で、これは実行計画においておくよりも 10 年間共有しておけるのではないかと、しておいた方がいいのではないかとこのことであれば、構想部分にあげていただくことも可能ではないかと思っております。

そういうことも含めて、事務局は上から下へ、下から上へという双方向の説明をしたと認識をしております。先程、ご意見にもありましたように、この今の「ありたいまち」や「まちづくりの進め方」からすると、今までの分野ごとの具体像は見えにくくなっています。逆に、まちづくり実行計画で、分野ごとのしっかりした計画や方向性が出てきますので、それを今後出した時点で、もう一度、「ありたいまち」や「まちづくりの進め方」をチェックした中で、もう少しこの辺りを重点化しておかなければ、まちづくり実行計画もこれを受けられないよと言う話が出てくるかもしれない。そういうことでやり取りをしようという事で、上から下、下から上というような表現になっている部分があるのかもしれない。その辺り、今後の進め方も含めて、一定の共通理解を進めていただければありがたいと思っております。

委員

今のお話、よくわかります。この4つの「ありたいまちの姿」がおかしいと言っているわけではありません。ここの言葉を書き変えてほしいと言っているわけではなく、別紙-1に書かれている「5つの地域社会」の要素がありますよね。上から下から、市民懇話会からの提言の集約と、中間答申からの流れで図表ができていますけれども、例えば、「人が育ち、互いに支えあうまち」の具体的な姿というのは、「まちづくりを担う人材が育つ」だけでも、これは具体的にいうと、どういうことなんだということがわからないと、構想自身が腑に落ちないのではないかと思うところで、私は先程、指標という言い方をしました。指標という言い方をしましたけれども、数値目標ではなく、指標。すぐには思い浮かばないですが、「こういう人を増やさなければいけない」や「こういう仕組み・こんな仕組み」、そのような意味合いの指標。その辺がないと、分かりにくさに繋がるのではないかということです。

会長

みなさんのご意見を聞いていて、私なりの言葉で言いますと、市民懇話会も含めて、あるいは、これまでの4回の総合計画審議会、専門部会、色んな意見を集約する形で、抽象度は高いけれども、最終的にこの4つになった。ずっと集めてきてこうなったのは分かったけれども、では、全体としてどこに行くのかについて、どうもこの4つでは曖昧なのではないかということで、価値観の多様化、あるいは、激動の時代を背景の一つとして言われましたが、では、実際に尼崎が目指す一つの方が、政策の軸といいですか、あるいは、尼崎市民の思う方向の軸というのが構想では出てこないところが、みなさんのちょっとした不安に繋がっているのではないかという気がします。その辺りを簡単に会長代理よりお話しただけないでしょうか。

会長代理

おそらく基本計画、まちづくり実行計画ができてきて、全体像が見えて、今のこの「ありたいまち」の4つがどう展開するのか、具体的なものがどうぶら下がってくるのかというところが見えてくれば、「ああなるほど、そうか」という所が見えてくるだろうと思う。懇話会の議論でも、夢のような話をしている訳ではなくて、具体的な尼崎で起こっている事象や身の回りで起こっている非常に困った事象などを出しながら、それを解決するためにはどうすればよいのかという議論を繰り返してきておりますので、抽象度が高いけれども、その中には尼崎市民の実感や尼崎市の実態というものを反映させながらの議論の末の提言です。

そこが、どうしても抽象度が上がってくると、わかりにくくなってくるというのは、せっかく議論した内容や分厚さ、きめ細かさが無くなってしまっているというのは、おそらくご指摘の通りであると思う。

では、どうするかということについては、みなさんと一緒に議論をさせていただきたいと思っておりますけれども、例えば、一つのやり方ではありますが、今、「ありたいまち」は3～4行で説明していますけれども、ここにもう少し具体的な尼崎の姿が見えるような文言を入れていくとか、あるいは、先ほど指標とおっしゃっているような、ここに尼崎の現状や、どれくらいの状況であるかというような図表やデータを説明的に入れていくとか、そういうことでこの4つの言葉の理解度を上げていくとか、これは編集の作業であると思うが、そういうことも可能ではないかなと思います。

ただ、分かりやすさ、見やすさについてですが、実は、これは、あり方を検討するとき

にも、専門部会とか、あるいは個人的に事務局とやりとりした中で出てきた具体的な話しをしますと、先程もご指摘があったように、新たな総合計画の骨格のイメージで、参考の一番最後の、今6番にあげられている「時代認識と尼崎市の現状」というのは、通常は、もっと前にくるんですね。この尼崎の課題や現状を押さえて、そして将来どうするかという話に展開するのが従来のパターンです。ところが、実は、事務局が後ろに回した意味・意図がありまして、それは、例えば市民が読んだときに、現状・課題が先頭にあって、そのデータや細かい分析が載せられていると、そこで読むのが止まってしまうかもしれないということで、伝えたいこと、分かりやすいものが初めにパッと出てきた方がいいのではないかという判断でこうなっています。

ですから、先程わたしが申し上げた、具体的データを入れた方がいいのかどうかというのは、それは最終的に読みやすさの中で、材料が出てから、もう一度編集作業で、調整をする、チェックをするということもありではないかと、今までの話を聞いて思いました。

会長

ありがとうございました。まだご発言いただけていない方、せっかくですので、ご発言いただければと思います。

委員

失礼いたします。先程から皆さまのご議論を伺っておりまして、気がついたところを整理しながら、私の意見をお話させていただきたいと思えます。

抽象的過ぎるということで、パッと読んだときに、これは尼崎のことなのか、どこの自治体のことを表すのか、頼りない、掴みどころがないというお話が多かったように思っております。こんなに抽象的でいいのだろうかということですね。

具体的なものを盛り込んだ方がいいのではないかというお話が出ておりますけれども、具体的という点にキーワードを絞った場合、2つあると思えます。「ありたいまち」という言葉のキャッチフレーズの具体性と、構想の中身がこんなに抽象的でよいのかという構想の中身の部分に関しての具体性というのは、別に分けて考えた方がいいと思っております。

これが尼崎の特徴だという尼崎らしさをどこに盛り込めるかということ、人は、ひと目で見た時の視覚的な印象に左右されますので、「ありたいまち」というこのキャッチフレーズ、スローガンに、面白い尼崎らしさ「あまがすき」のような、分かりやすくして平仮名で短いキャッチで掴みはOKみたいな表現を使って、尼崎らしさを出せばいいのではないかと私は思えます。

構想の中身に関してですが、基本構想の策定は法定義務から外れることとなる見込みです。ですから、法定義務がないにも関わらず尼崎市としては策定すること、それがどこに意味があるか、それは長所があるからであると私は思っております。構想の中に抽象性を盛り込む、あるいは、抽象度が高いというのは、これは、「こんなの頼りないじゃないの、何言っているかわからない」ということは一番言いやすいのですが、逆に言いますと、抽象度が高いならでは長所があると、私は思っております。

抽象度が高いということは、逆に言えば、広く網かけができるということです。先程、双方向ということで事務局の方からご説明いただきましたが、私は部会委員でもありますので、先生方とも色々議論をさせていただきまして、私が思ったまちづくりの構想、「ありたいまち」とそれから「まちづくりの実行計画」というのは、ある意味、両極端は一致するという原則を使えばいいと思っております。

構想の部分は、ある程度、抽象性をわざと確保しておく。逆に、実行計画のところはあ

る程度、細かく具体的にします。両極端は一致しますので、その部分は双方向がいきやすい。構想の部分で網かけを広くして間口を広くすると、入口を広くするということはどこからでも入れるということです。ある意味、社会というのは予見ができない出来事から入っていても事実が先行しますから、あの当時、議論していたけど想定もできなかったという想定外の実事、予見性が確保できない事象、現実、現象というのが起きてくるわけです。

構想の中身で、ある程度、具体的な文言を入れ込むということは、確かに何を言っているかわかりやすい。期間は短い10年しかない、5年しかない。成果も見やすい、分かりやすいというけれども、逆に言えば、私たちが特定の目標を掲げることになります。それは逆に言えば、それは限定をかけることになります。幅を作ってしまうということになります。申し上げていることが、上手く伝わるかわかりませんが、例えば、抽象的過ぎて「和食」という例を掲げた場合に、和食であれば何でも入ります。割烹料理となりますと、普通の安い定食や安いお惣菜は入らなくなりますね。

現在、起きている社会の事実として、起きている想定外の色々なことで出てきている事実と言いますか、従来の分野や従来のマニュアルで対処できない事実が発生したときに、あるいは事情変更が起きた場合に、どこで対応できるかということになると、構想の所で具体性を盛り込んでしまうと、そこから外れた事実は対処できなくなってしまう可能性があります。ということは、あらかじめ、大きく「健康で」「安全で」「地域で」といった抽象的な言葉を盛り込むことによって、そこにひっかけて網をかけることができる。この事実はこの構想の中に入るのはではないか、だからこのために新しく政策を立てようじゃないか。政策課題は外れているけれども、ここに該当するからと、そうやって優先事項に入っていくことができるわけです。

ですから、抽象性ということについては、法律には大きな抽象規定と具体規定というのがございまして、わざと抽象規定も置きます。それによって、具体的な事実から外れたことに対して対処するために、一般的包括規定という言い方をしますが、包括的な抽象的な部分というのは、逃げ道として残すべきだと思っております。ですから、私は構想の中に抽象性というのは確保すべきであると思っております。

その部分の具体性が全然見えないではないか、ということですが、逆に言いますと、ありがたいことに、5年間しかまちづくりの実行計画の期間はないということですので、5年ばっちしかないということになりますと、さあ、大変だということで、市役所の方々も集中するでしょう。そして、優先的に配分して着手時期も早めるでしょう。お尻に火がついて、正味2年から3年しかないので、2年、3年の間にしなくては行けないと、当面の優先課題が整理されやすいということもあると思っております。ですから、まちづくり実行計画の中で具体的な部分をとことん盛り込むというのは、必須になってくるかと思っております。

こういう形で、相互補完という言葉になりますけれども、補完というのは、「補って完結し合うという」意味ですが、構想と実行計画は相互に補完し合う関係として構成しておいた方が、将来的には安全になるのではないだろうかとは私は考えております。

もし、よろしければ、尼崎らしさを出すのであれば、キャッチコピーのところで独自性のものを出して、構想の部分ではある程度抽象性を確保したほうが、策定しなくてもよくなったものをわざわざ作るのですから、長所を最大限に生かした方がいいのではないかと私は思っております。

ありがとうございます。計画の関係性から言うと、構想は抽象度が高い方がいいのではないかというお話ですね。その通りだと思いますが、どうしても少しかれいごと系のことになりはしないかという心配をされる皆さんもあろうかと思います。

委員

僕も部会の方で議論をさせていただいて、「ありたいまち」の文言だけ見ると抽象的かなというイメージはありますが、実際、僕は公園を造るということを専門としているのですが、その立場でこれを見てみると、これは目標にならないのかということ、そうではなくて、結構、目標になるんですよ。

今までの考え方でいくと、例えば、公園を造る仕事は4番ですよ。よりよい環境を次の世代に引き継いでいく、そんなふうにカチッと当てはめると、公園だけを造ればよいわけです。

しかし、僕がこれを見て公園を造る目標として考えるのは1番です。人が育ち支え合う公園と言うのは、みんなが遊びにきて、子どもたちが学校で学んだあとは公園に遊びにきて、そこで地域の大人たちが地域のことを教えてあげるとか、そしていつもそこに人が集まっていたら、何か災害が起きたときに真っ先に公園に避難する。ここに書いていますが、公園をそのような場所にすることによって達成されるんです。公園なんて「こ」の字も書いていませんが。

このように目標を設定するには、結構いい文言ができています。ですから、今までの樹形図的に将来像がバシッと決まっているものではなくて、自分がこんなまちをつくらうと思って見たときには、意外と使えるなというイメージが僕にはあります。

委員

この4項目が具体的なものなのか、抽象的なものなのかという議論においては、私個人の意見としては、抽象的ではありますが、この形がいいと思います。なぜかと申しますと、この案が構想の中でどこの表紙を見てもどこのまちが分からないというお話もありましたけれども、やはり抱える問題はどのまちでも同じであって、このまちのオリジナリティで解決していくのが基本計画の役割なんだろうと思います。だから、尼崎らしくこの問題について解決していく手法をとっていく過程の中で、やはり、この4項目について、この構想が計画の足を縛るような形になってはいけなかなと思う。自由度がある形で解決できる方向を選ぶ方がよいと思います。

委員

なかなか発言がまとまらず聴かせていただいておりますが、自分の考え方としては、今のこの原案でいいと思います。ただ、なぜ私がいいと思えるかということ、別紙 -1でこれが生まれてきた背景、議論の定義が見えて、そしてその参考資料を見ると、こういう背景があつてと、その背景が見えるからです。これは市民の皆さんの議論があつて、また、こういうような分析があつて、データがあつて出てきたと背景が見えるのでいいなと思いました。それが見えないまま、別紙 -2だけがパンと出てくると、「何だこれは？」となるんだろうなと思います。

そういう意味では、会長代理おっしゃられたように、見せ方的なところの工夫をすればというふうに思っております。例えば、各4つの柱がありますけれども、それが今、尼崎の現状はどうかという話があると思います。その現状には、例えば寺町はどうなっていて課題の部分があつて、というふうに、どの資料で市民に向かって説明していくのか、見せていくのかということにかかわるのですが、資料 -2だけだとしんどい。かといって、

資料 -1、参考資料、全部は無理ですよ。そうした時に現状はこうですね、あるべきはこういう方向ですよというふうに、見せればいいのではないかと思います。

先程、目標がないのかと言う意見に、私もハッとしたのですが、確かにぼやっとしているなと思いましたが、ただ、どこで目標を書くのかというと、実行計画の最初に書いてあるところでいいのではないかという意見を持っております。

この4つの指標を、5年間の目標はこうであるというふうに政策目標を立ててしまって、その下に施策があるというふうに展開してはどうか。今も、「6 各論」の成果指標が(3)にありますけれども、これはたぶん施策毎の指標になってしまう可能性があります。それがどういうものかの議論はまだ先のことですが、このありがたい4つの指標の5年後の目標はこういう状態である、と計画の最初に書いてあれば、そのまちのイメージはできるのではないかなと思う。一方、10年後の目標を具体的に設定するというのは、かなりきついものがあるというふうに思っています。

あと、これは表現の問題だと思いますが、別紙 -1だと箇条書きで書いてある要素的なところが、別紙 -2だと文章で書いてあり、ぼやっとするので、この文章はこういう要素であると、柱が見えた方が、「このありがたいまちの柱はこれです」と説明しやすくなるのではないかと思います。基本はいいと思います。

会長

「ありがたいまち」と「まちづくりの進め方」をまとめていただいているんですけども、中身についてはどうでしょうか。

委員

中身についてはこの原案でいいと思います。付け加えるのであれば、尼崎のもっている人情とか、そういう良さとかがあった方がいいなとは思いますが。

委員

今回の案では具体性がないのでは、という議論になっていますが、「ありがたいまち」は他のまちでも通用するものだと思いますけれども、例えば、富士山に登るという具体的なことを書いたときに、本来は、なぜ富士山に登りたいのか、なぜ高いところに行きたいのか理由があるはずで、それは、例えば、よく物を見るためだとか、眺望のいいところ、環境のいいところに住みたいからだとかいうことなんだと思います。

しかし、ある程度、具体的にしてしまうと、「なんでそうなの」というところが見えにくくなってしまいますので、先程、おっしゃっていたように、人に共感してもらうためには、なぜ登りたいのかということをおある程度、共感してもらえそうな形にする必要があるので、いきなり富士山に登るということではなくて、なぜ登るのかということをお願いがために、あえてこの4つでくくるのが一番やりやすいのかなというところを専門部会でも議論させていただきました。

先程、会長代理がおっしゃっていたように、今もう一つ考えないといけないのは、色々なことが色々な要素で繋がっていて、Webの世界のような感じで、何かのきっかけがあれば、一気に連携して動いてしまう可能性のある時代になっている。

以前だと、これは都市計画論、これは交通計画論という形で位置付けられていたのが、例えばそれは交通計画だけではなく障害者福祉にも繋がっている。あるいは、交通計画に見えるけど、それは、例えば、学校教育につながっている、みたいなどころがあります。それを、きちんと踏まえられるようにするためには、各論を積み上げていくような従来型のやり方ではまずいのではないかと思います。

市民にしてみたら、自分は気持ちよく生きていただけですが、どれを気持ちいいというのは人それぞれ違うわけであって、それを何とか包括できるような形にできないか、ということで専門部会で議論させていただいた。そういう意味で、従来型の区分けで積み上げてという形ではない、社会に対応できるような繋がり仕組みを考える上では、抽象度が上がってしまうのは仕方ない。そういう考え方でいいのではないかと考えています。

会長

従来の縦割りから一步踏み入れようと思うと、抽象度の高い表現が増えると言うことですね。

委員

先程は、ありたいまちの10年計画と、目標なり理念、私は理念という言い方をしましたが、抽象度が高いということでは言っているわけですが、構想の部分でどういう形を選んでいくかということの議論は、前回までは無かったと思います。例えば、5年、10年、このスパンで考えましょうということであったため、どういう構想でいくかというところが、今、議論になっていて、これがどうかなというのがまず論点かと思う。

この4つで括るという点では、これはあまり、どなたも異論がない部分であると思うし、それから抽象的という部分ではそうだと思うのですが、それよりも問題は、どこのまちも同じような問題があるといいながらも、やはり尼崎の計画だと思える部分が、この「ありたいまち」だけが表に出てしまうと、市民から見ると何のことかわからないだろうということから考える必要があると思います。

議論すれば、市民の方も納得するかもしれませんが、市民にはこれが発表されたからといって議論する機会はないと思う。そういう意味では、先程言われましたけれども、やはり、尼崎はこういう方向を目指しているんだな、というような、全体でイメージできるキャッチフレーズなり、理念がわかるようなものが、これとは別に、もう一ついるのではないかという気がします。

6番目の「時代認識と尼崎市の現状」が一番最後にありますが、私は現状があってそこから課題がでてきて、それをどうやっていくかというのが計画の流れだと思う。どうしてもこの「ありたいまち」というのは、理想に近いものになりますから、理想と現実のギャップをどう埋めるかという流れとしても、その方がいいのかなと考えております。

もうひとつの議論のところ、細かいことかもしれませんが、別紙 -1 の『「ありたいまち(案)」を考える視点』が4つありますが、一番右の、中間答申を踏まえた考え方の枠のところですが、「市民の健康、安全・安心の確保は、市民生活を守る上で最重要の要素で、厳しい財政状況にあっても、行政が一定の責任を果たすべき領域。」とあるのは、やはり、健康・安心・安全というのは、住みよさを決めて行く一番の要だと思う。その点で、行政が一定の役割を果たすということを述べています。もちろん、市民自らが健康を維持するのは当たり前の話ですから、こういうところは一つ目安になるかと思いますが、今日は、別紙「まちづくりの進め方」まで議論していませんけれど、健康の問題で言えば、課題認識等の欄に「医療や介護をはじめ、地域の福祉に関わる多様なニーズが増えてくる」とあって、先程のように行政が一定の役割を果たすべきなただけけれども、どこまで行政がやるのか、市民がどこまで自分たちでやるのか、今のところでは、もう少し明確にしないといけない。確かに、こうしていきたいという積極的な市民、やる気のある市民がたくさん出てこられることが望ましいのですが、やはり一番の尼崎の問題は、そういうことができない、余裕のない人、所得の格差があります。これからの10年を見ても、そういう方

向は強まるであろうし、そこが一番、尼崎市の財政を圧迫していています。確かに、借金もありますけれども、それよりも福祉の方にお金を使っていかなければならないし、そういうことでなければ暮らしていけない人が増えているというのが一番の問題であります。そういう所の問題の解決の方法が、これでは、まだ見えてこない。しかし、自分たちで何とかしようと思う、元気のある人は、これでよしというふうにはなっていると思う。二分化されてしまうかもしれないなという気がしました。

委員

失礼いたします。もうすでにそれぞれの委員の方から、たくさんご意見をいただいておりますし、私も色々なところで賛同することも多いですが、少しだけ述べさせていただきたいと思います。

最初、この「ありたいまち」を拝見したときに、私は、児童福祉の分野で参加させていただいておりますけれども、4つ全ての項目が関連するところでひっかかってくるなというのが第一印象でした。先程、「広い網かけができる」ということをおっしゃっていただきましたけれども、まさに同じ感覚をもって、「ありたいまち」の4つの方向性を見させていただきました。それぞれの事業や施策についても、やはり、おそらくこの4項目がひっかかってくるのではないかなと思います。これが、私は横糸という表現を思ったのですが、横糸か縦糸かはわかりませんが、そこにこういうものが混ざって、そこが繋がって、施策などが浮かび上がってくるのかなと思って見させていただきました。

ただ、今、委員の方々のお話を聞かせていただいて、やはり市民の方に見えるというのはすごく大事なことだと思います。中身を読めばわかるではないかというのは、おそらく、あまり通じないところがあると思うので、やはりそういうところで「見えるもの」をつくっていく必要はあるのかなと思いました。

委員

既に様々なご意見がでておりますが、私としては、この「ありたいまち」の4つについて、先程の網かけのお話ではないですけれども、公園のお話がすごくよく理解できました。

それは、逆に、これが抽象的であるからこそなのかな、と素直に思いました。「尼崎らしさを」という考え方もあると思いますが、私自身が思うのは、これが西宮だから、芦屋だからということではなくて、どこの市も「ありたいまち」を考えたとき、この4つで十分ではないかなと思います。

もうひとつ思うのが、先程のお話にあったように、現状と課題ということを突き詰めていったときに、おそらくその時に初めて、尼崎の現状が明らかになって、尼崎らしさが出てくると思うので、「ありたいまち」を抽象的に留め置いても、これが現状と課題を突き詰める中で、そこで初めて尼崎らしさが出てくると思います。

それと、市民の立場として言うならば、この「ありたいまち」の前に文章やデータがたくさん並ぶと、そこで読むのが止まってしまうというお話は、まさしくそうだと思います。

ですから、先程のお話があったように、キャッチコピーなどで見せ方の工夫もできるとは思いますけれども、基本的には、この「ありたいまち」という、敢えて抽象的な方がいいのではないかという感想を持ちました。

委員

私は原案で賛成です。考え方の方向性として、これをもとに作成するということがいいと思います。ただ、尼崎の持っている課題、解決しなければならない課題を意識して、市民の方がどの程度まで良い方向に向かうのかということは非常に大きな問題であると思う

ので、そのことの意識だけは、やはり施策や指標などの設定をする上で、考えなければいけないと思います。

また、表現が抽象的であるということについては、徹底して、「あまががすき」でも、「あい・らぶ・あまがさき」でも、市民が誇りに思えるような表現をしていけばよいと思います。

委員

この「ありたいまち」の4つの部分というのは、私も尼崎市民でありますので、共感を覚えますし、これくらいの抽象度が高いのは理念であるので当然のことだと思いますし、これで結構かと思います。

それで、尼崎らしさはこの4つの姿をどういう手法を使えば具体化できるか考える時に、尼崎らしさが出てくるはずだと思います。ですから、それは次の段階ではないかな、と私は考えます。

それから、議論の仕方についてなのですが、異議がある場合などには、例えば、こういうふうにしてはどうですか、という代案を具体的に示していただきましたら、より建設的な議論ができるのではないのでしょうか。

会長

ありがとうございます。できましたら、おっしゃるように代案を言っていただくのが、一番ありがたいのですが、そこまで言うと、みなさんなかなか発言がなくなってしまう可能性がありますので、できる範囲で結構です。

時間も迫ってまいりましたが、これだけは言うておこうということがあればご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。

委員

文言でひっかかったのですが、まちづくりの進め方で、「自治体運営」という言葉が3番、4番に並んでいますよね。これは、「運営」であるほうがいいのか、「経営」であるほうがいいのか。「運営」にされた意味合いをご説明いただきたい。

事務局

実は運営か経営かで悩みました。以前、NPMであるとか、自治体経営という言葉が流行った時期がございました。確かに、経営的視点というのは重要であると思っておりますし、その概念は職員にもだいぶ浸透していると思います。そのような視点を持ちながらも、現在、私どもは地道に自治体運営を一生懸命にやっていきたい、という気持ちがありまして、そういう意味で「運営」にさせていただいております。

委員

本日初めて参加させていただいたので分からないのですが、本日配布された資料に関する議論は今回で終わりなのでしょう。

会長

この議論が本日限りなのかということですね。この議論に関しましては次回も議論はありますが、審議会そのものの回数が限られているので、できれば事務局にもどんどん意見を言っていただいて、ブラッシュアップさせていきたいと思っています。

委員

それであれば発言させてください。

別紙 について、先程、意見がありましたが、まちづくりの進め方を考える視点というのが基本構想の項目になっています。表の部分に関しては、みなさんが抽象的でよいとい

う意見であるため、それはそれでよいのですが、ただ、まちづくりの進め方のところは一つの方法論として出ていますので、私が聞きたかったのは、まさにこの部分のことなのです。最初に骨格のイメージから入ったものですから、私も飛ばしてしまいました。

ここで1つの例を申し上げますと、住民主体のまちづくりということが、方法論で入っていますよね。これも抽象的で、たぶん一般的にはアレルギーがない。住民主体のまちづくりというのは、これまでの市政運営の上でも、方法は違ったかもしれないが、ずっと色々な市長さんたちがそういう形でやられてきています。

右横に出ている「主な視点」という部分が、いわゆるネットワーク形成の支援。それから、地域課題やニーズに応じて、主体的にまちづくりに取り組むための支援。それから、多様な人材が育つような環境づくり。これもある意味では当たり前のことです。問題なのは、具体的にどのような支援がいるのかということです。それも今のお話では全て実行計画で示すということですよね。私が言いたいのは、ここで、そういう支援の、例えば、方向性みたいなもの、中身みたいなものを、もう少し踏み込む必要があるのではないかと思います。ここも抽象的でよいのかということをご議論いただきたい。

もうひとつは、「住民主体のまちづくり」という言葉が出ていますが、先程、住民自治という問題を言われた。その住民自治という問題について、例えば、地方分権としての尼崎市の自治という意味では、一般的な流れですから、地方分権は中間答申のところと触れられていますけれども、ここで言う住民主体のまちづくりというのは、地域自治すなわち、尼崎において、例えば、地域住民が自分たちの地域を治めていくという、そういうことを目指す方向性があるのか無いのかという辺りが非常に不明確である。だから、そういう概念ではなく、単に、地域を豊かにしていきましようということだけを言っているのか、地域自治を目指していくことを支援するのか、それも非常に大事な視点だと思うが、抜けおちていると思います。その辺を各論に回すわけにはいかないと思いますので、ここで議論すべきではないかと、私は思います。

会長

ありがとうございます。実は今おっしゃったことは、今、思い出すと、以前、議論もあったのですが、これがなかなか、構想の中で具体的に書きこむというのは難しいという印象も実はありました。ただ、大変重要な論点であることは間違いないのですが、この辺り、今回中間答申を一応前提として議論を進めているところですので。

委員

議論する必要はないということですね。

会長

ないというわけではありませんが、構想のレベルでそこに踏み込むのはなかなか難しいのではないかと思いますというのが私自身の意見です。

委員

先程、10年という期間で基本構想を作られるということがコンセプトとして入ったということですので、私は、例えば「地域の自治を作っていこう、地域住民の皆さんに治めていただきましよう」ということを目標に掲げたら、例えば10年というスパンではこれくらいのところまでは、市民も行政も頑張ってもらいましようというきっかけができるかなという意味で申し上げました。具体的に言えば、そういうことをイメージして申し上げました。

人と人が支え合うまち、住民主体のまちづくりと言いますと、話をぶり返して申し訳

ないですが、これは本当に抽象的でいいというレベルを越えてしまっているのではないかと感じております。各論・計画をどう作るかという問題ではなくて、自治というイメージをもって、例えば、地域を豊かにしましょうというところを、住民自治という形で表現するのが不可能であれば、それはもちろん議論していただいていいが、そういう所が基本構想としてのレベルを積み上げていく、一つの課題ではないのかなというイメージを持っていました。

会長

分かりました。ありがとうございます。この辺りはもう少し精査して、事務局の方でも今のご指摘に答えていただくような整理をお願いしたい。

委員

私も住民自治というのは、重要な要素であると思っています。それと、私は経営と運営であれば、自治体の場合は、運営だと思っています。一つは、住民の意思をどう反映していくかというしくみづくりが大切だと思います。と言うのは、10年計画・5年計画を今後、作っていきますよね。それから具体的な毎年の予算になっていくんですけども、やはりそれについて、1つ1つについて、色々な意見が出るのですが、尼崎の場合は特にそういうところがありますから、それを議論の上で決めていくというシステムが必要なのですが、こういうまちづくりの計画で、これと、これと、これと言ってしまうと、具体的な議論となったときに、住民がこうでなくてこうしてほしいという声が出たときに、これとどう整合性を持っていくのかという仕組みが必要ではないかと思う。

それと、新しい考えなのかもしれませんが、進め方の4つ目の視点に「成果を重視する自治体運営」とありますが、この「成果」とは何かということについて、今まであまり議論されていなかったと思いますが、例えば、今、一生懸命やっているのは行財政改革ですけども、これは、どれだけ予算を削れたかが成果なんですよ。でも、ここで言われているのは、住民生活にどれだけ効果があつたかという、そういう視点です。同じ言葉で語られてしまうので、その辺の考え方をもう少し具体的にしないといけない。

委員

私は「ありたいまち」がどう「ありたい」のか分からないので、「ありたいまち」がタイトルとして出るのであれば、逆に少し座りが悪いかと思います。この、1、2、3、4の内容は具体的です。抽象的ではありません。私の理解からすると。

それから、「ありたいまち」欄があって、別紙のまちづくりの進め方を考える視点の所に、なぜ、「住民主体のまちづくり」「協働によるまちづくり」の次に、なぜ、自治体運営に関する項目が、4つの項目のうち2項目あるのかと思います。

「ありたいまち」欄では4項目、「次の世代に負担を残さず」が、この持続可能な自治体運営かなと思っていましたが、この進め方の中に自治体運営が2つも入るのは不自然だなと思いました。もっと住民主体のまちづくりをどうやって進めていくかということを強調された方が、もっと住民主体になるかと思います。

会長

ありがとうございます。今、ご指摘いただいたことは、行政のあり方についての議論なんです。進め方の下2つは必要なのかという指摘がありましたが、感覚的に奇妙な感じがしなくはないですね。この辺りも含めて、今どうこうというわけではないが、次回までに再点検をしていただいた方がよいのではないかと、私自身も感じているところではあります。もし、事務局の方よりこれに関して何かあれば。

事務局

まず、「ありたいまち」の4つ目ですが、やはり、単なる財政問題ということで捉えてしまうと、確かにおかしなイメージになるのかもしれないですが、やはり財政をしっかりさせて市民の方の生活を支援していくことが当然大事になってまいります。逆に、例えば、健康で働ける生活を送っていただくことや、健康で介護を受けなくてもよいことは、その方も幸せですし、結果として財政にも寄与してまいりますし、ひいては自治の持続にも繋がってまいります。そういったことで、市民生活を支えるものとして、1つ目から3つ目の項目と相互に関係してくるものだという考え方でございます。もうひとつは中間答申までの議論におきましても、やはり、財政状況がどういう状況にあるかということ、リスクも含めてアカウンタビリティという意味でしっかりとお知らせした上で、共有し、それにどう対応していくかということを考えていくことが、これからのまちづくりにおいて非常に大事なのではないかという意見がございました。そういったことで位置づけさせていただいたものでございます。

次に、進め方の下2つでございしますが、左側の下の4つの四角にありますように、中間答申におきましてもまとめていただいておりますが、しっかりと総合計画においても、マネジメント、仕組みですとか、現状がどうでどういう方向を目指すのか、例えば、指標といったものを入れるべきではないかというご意見をいただきました。これは実行計画に書き込んでいくものでございますが、そういった指標というものを施策毎に探して、市民の方にも、どういう状態であるかを共有していただくことも、計画を進めて行く上で非常に大事ではないかということでございます。そして一番下の財政運営という部分についても、しっかりとしていかないと、当然ながら市民生活に影響が出てくるものなので、それもまちづくりにおける車の両輪のうちのひとつのようなものであって、計画に位置づけないといけないということで中間答申の考え方を捉えさせていただき、整理したものでございます。

会長代理

おそらく、これは行政の大きな方針であるため、要らないというのではなく、ここに横並びであるのがいいのかどうかという議論であると思います。ということで言うと、例えば、まちづくり実行計画の方に、この大きな方針を入れることができるのかどうか、どこに収まるかということも、事務局と一緒に考えさせていただきたいと思うのです。おそらく、横並びでいうと、今の所の収まりはいいのかなという感じはしています。

また、「まちづくりの進め方」が4つ並んでいる中で、3と4はトーンが違うね、という話があると思うのですが、もしこれが提案の中で無かったとしたら、「行政は何をするんだ？」ということで、また突っ込みが入ると思いますので、全体的に収まりのいいところを見つけていきたいなと思います。

委員

尼崎らしさということ考えたときに、「おもしろがって関われる」という観点がすごく大事なのではないかなと思います。尼崎市民がおもしろがれるか、行政が楽しみながらおもしろがりながら仕事ができるか。この文言を見た時に、なかなか発信するのが難しいのかなと思いました。内容はこれでいいと思いますが、尼崎で面白いことが始まったみたいだよ、ということが、ちょっとした表現の仕方、「例えば、こんなこと」と言えたらいいんだけど、ちょっとそれはなかなか思い浮かびあがらなかったんですが、もっとこう、おもしろがっていけるような、尼崎らしい表記の仕方などがあれば、そこで尼崎らしさを

出すことができるのではないかなと思いました。

会長

実は、事務局の方と打合せをしている時にも、今日、皆さんからいただいた意見のように、私自身も具体性がないですねと申し上げて、もう少しこれから尼崎が、先程、意見があったのですが、市民が夢を持てるような、具体的なことを入れることはできないのかなというような事を申し上げました。

ただ、今日皆さんと議論する中で、構想と計画の関係とか、改めて、私の立場で今頃とお叱りを受けそうですけれども、考え直していきますと、皆さんおっしゃるように、やはり、ある程度抽象度が高くても、それによって可能になることがあり、更にその計画の中で最後にご指摘いただいたように、市民が夢を持って面白がって参加していくような、そういうような方向性ということで、これが整理できていったらいいのかなという気も致しました。

この辺り、今日は貴重なご意見をたくさんいただきましたので、事務局の方で再整理していただきまして、次回に向けて取組をするということをお願いしたいと思います。その際には、何かご意見がございましたら、本日は2時間の議論でありましたので、事務局の方に意見を投げかけていただくというようなことをお願いしたいと思います。

司会の不手際で、いただいた時間を超過してしまいましたけれども、とりあえず今日はこれで議論を終了ということにさせていただきたいと思います。事務局にお返しいたします。

2.その他

事務局

ありがとうございました。本日は、骨格案ということでお示しをさせていただきました。非常に貴重、かつたくさんのご意見をいただきましたので、このご意見を踏まえまして、基本構想の素案の文章化作業を進めさせていただきたいと考えております。

今日いただきました課題の整理も、専門部会の先生方との議論も含めまして、次回ご提示させていただきたいと思っております。

ご多忙のところ大変恐縮でございますが、ご協力いただきますよう何卒よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

会長

これにて終了でよろしいでしょうか。

どうも皆さん、今日は本当に遅くまでご協力いただきありがとうございました。次回もよろしくお願いたします。

閉会

以上